

# INSPIRE No.12

## イベント

### 第13回GSGミーティング

日時：1月24日（日）

時間：9:00 - 12:00

場所：神奈川県川崎市宮前区鷺沼1-18-11 ニューウェル206号室（東急田園都市線 鷺沼駅正面口 徒歩5分）

費用：5,000円

テーマ：2016年最初のGSGミーティング。ギフトッドに関するチームビルディングゲームなどを楽しみながら、来年2016年のそれぞれのアクションプランを立てます。

申し込み：[office@jagifted.org](mailto:office@jagifted.org)

日本ギフトッド協会事務局



今年もあと2週間。今年の振り返りをどうやって行いますか。ギフトッド教育は才能を伸ばすという教育より、秘めた自分の素晴らしさを開拓する教育です。「Awaken Excellence～素晴らしさを呼び起こす」これはギフトッドの子供たちはそれぞれが持つ特徴を用い、より爆発的なエネルギーを持ってできます。しかし、上手な事を同じようにずっとやり続けても「Awaken Excellence」を自分でする事はできません。今年、子供たちはどれくらいストレッチされましたか。快適ゾーンが広がりましたか。冒険からどれくらい学びましたか。社会的、感情的、学習的、身体的に、どれくらいリスクをとって、新しい自分に出会える事ができましたか。子供の活動の領域は広がっていますか。もしかして、ずっと同じ事をやっていたか。一つの物事を深掘りする子供も、快適ゾーンを広げていかなければなりません。快適ゾーンは身体的、感情的、学習的、社会的に広げる事により、自分も驚かされる素晴らしさを発見する事ができるからです。同じ事を上手に同じようにやっている事に恐怖を覚えなくてはなりません。2016年はどうやって新しい自分に出会えるように快適ゾーンを広げていきますか。



## 消極的登校児 VS 積極的不登校児

思春期で反抗期のギフティッド、どっちがいいのかなあ？

	登校	VS	不登校
タイプ	消極的登校児		積極的不登校児
学校	踏切りがつかない		見切りをつける
学びの場	学校		塾やNPOやフリースクール
先生	学校		塾やNPOやフリースクール
友達	同級生		年上の生徒または大人
イジメ	有		無
内申書	気にしなければならない		気にしなくてよい
受験目標	高校受験		中学受験または高卒認定
表情	笑顔が減る		笑顔が増える
体	痩せる		太る
肌	黒い		白い
心	暗くなる		明るくなる
本人	不安		安心
親	安心		不安
	登校出来るからこそ問題を先延ばしにしたい		不登校だからこそ問題を早急に解決をしたい
総合判定	×		×

とどちらもよくないじゃん！理想はギフティッド専門の学校が出来ることだけど、そんなこと期待していたら日本はあと何十年かかる事か……。ならば、両方美味しいトコどりのコラボレーションはどうだろう？息子（中1）は消極的登校児、学校嫌い、帰宅部、話せる友達いるの？でも、ありがたいことに帰宅部のおかげで時間はタップリある。ならば発想の転換で、学校以外での活動なんてどうかな？理解ある居場所で、理解ある先生で、同じギフティッド友達を、学校では出来ない体験をさせようじゃないか！うまくは言えないけど、ギフティッドに関する体験学習？ギークキャンプ？NPO？フリースクール？塾？まだなにかはわからないけど、とにかくネットでアンテナを張る事にしよう！

皆さんはアルフレッド・アドラーをご存知ですか。「個人心理学」の始祖となった人です。私もつい最近まで「アドラーと言えば、劣等感理論を打ち立てた人でしょ」ぐらいにしか思っていませんでした。

しかし、去年「嫌われる勇気」という本がベストセラーになり、その本を読んだことがきっかけとなりアドラーについて勉強するようになりました。

その中で「ライフスタイル」という概念がとても役に立っています。人間は誰もが幼児期に、ある「何か」によって「自分は何て無力なんだ、無能なんだ」と思い、これが劣等感の核となります。そして、その「何か」がその人の人生のテーマとなり、そのテーマを通して自分の体験を解釈し、そのテーマに沿った行動を取るようになります。それがその人特有の「ライフスタイル」となります。

そのテーマを探るためにアドラーは「早期回想」という子どもの時の思い出を患者さんに訊いていました。しかし、実際クリニックに来る患者さんに「人生最初の思い出は？」と訊いても、何がテーマかはっきりしません。そこで、もう一つの質問を加えることにしました。それは「一番腹が立つ時はどんな時？」という質問です。この二つの質問の答えからその人のテーマを推測します。そうすると、その人がなぜそういう行動するのかが面白いほど分かるのです。

私の場合、人生最初の思い出は、保育園でお昼寝しなかったら、罰としておやつを出してもらえなかったことです。一番腹が立つのは、ものすごく頑張ったのに逆に責められるなど、「理不尽だ！」と思った時です。なので、私は幼児期「自分は理不尽さに無力だ」と感じたので、以後「自分が体験している事が理不尽かどうか？」という視点で自分の体験を解釈しているようです。この仕事についているのも、世の中の理不尽さと戦うためなのかもしれません。皆さんも自分のテーマを探ってみてください。

ちなみに、12月17日にイーストプレス社から『子どもの気持ちがわかる ママの心が楽になる子育て心理戦』という本を上梓しました。良かったら読んでみて下さい。

～ すくすくクリニック 新井



## 失敗の可能性のある経験

「影になっている所だけ踏んで帰る」「後ろ向きで帰る」「葉っぱで舟を作って川に流して追いかける」「家の庭に穴を掘って、違う国に行く」冒険はとてもクリエイティブで主体的です。冒険は新しい視点を学ぶことでもあります。その冒険は子供たちの目の前にあります。学校や習い事の時間だけで時が流れていないでしょうか。何かを学ぶとき、「**ランドセルよりバックパックが似合う子**」がいます。ランドセルには教科書やノートかもしれませんが、バックパックには冒険を詰め込むことができます。そして、身体的な年齢で物事が決められ進みがちですが、子供の感情的、知的、社交的な年齢にも注目しなくてはなりません。そういった冒険の中で子供たちは自分が成長をしている事、そして、その成長に自分の意見が反映され、「常にエンパワーメントを感じている事」を体験できます。そこから全て自受心、自尊心、自信など「自」がつくものが育っていきます。「自」がつくものを持っている子供は自分の情熱に向き合い成長し続けます。そして、自分の「能力」だけでなく「魅力」にも目を向ける事ができます。冒険ですので、**心身ともに擦りむく事**もあります。しかし、一つ一つの冒険が子供たちを強くしていきます。子供がチャレンジをする時、「私の子はまだ」「来年になったら」「中学校にあがったら」など思いがちですが、子供たちは**背伸びをしてチャレンジする事**が大切です。「できる」と思ったときは、そのチャレンジはもうすでにチャレンジではありません。もしかしたら、そのチャレンジをする機会もなくなっているかもしれません。子供たちは「失敗する可能性のある事にチャレンジしているか」を自分たちで考えなくてはなりません。子供たちが経験しなくてはならない事は「**失敗も成功も成長の体験になるという事**」です。「上手にできないから、やらない。」「恥ずかしいから、やらない。」という事を言う子供たちもいますが、一番大変なのが「やらなければ失敗はしないので、だから最初からやらない」と思ってしまう子です。そうなると、快適ゾーンは広がらないまま成長するでしょう。**人生の素晴らしい事は快適ゾーンの外で起きています**。子供たちは自分自身にチャンスを与えられる子に育ってほしいです。「それやってみたい!」「どうなるかわからないけど、やってみる!」という言葉を使う子です。できないのは「今の状態」であり、「未来は違う」と思う子です。心に冷や汗をかく事を頑張れる子です。

2016年は「新しい自分の一面、新しい人、新しい価値」と出会う事ができるように、自分の快適ゾーンを飛び出すチャレンジをしましょう。人生の素晴らしい事は快適ゾーンの外で起きています!!!!

- 今瀬博

